

# ゴマダラカミキリムシの効率的防除

ゴマダラカミキリムシの防除対象は、**成虫と卵・若齢幼虫**となる。老齢幼虫になると、防除も困難なうえ、被害が甚大となることから、耕種的防除を適切に組み合わせて効率的に防除を行うことが必要である。

## 耕種的防除

- ①定期的に株元の虫糞をチェックし、針金等で刺殺する。  
**ポイント: 株元を除草しておく、見つけやすく、乾燥で卵の孵化率が下がる。**
- ②成虫は飛翔し、集合性があるので、地域ぐるみで放任園の発生を防ぐ。



枝の食害状況



産卵された卵

## 主要薬剤の防除効果

成虫に対する残効試験※



産卵抑制試験※



※薬剤処理7日後に、各区5頭を放虫し、5日後の調査結果(2連制)  
注)産卵抑制試験は、産卵数が0の場合、補正密度(%)が100となる

## 薬剤防除のポイント

- ・残効・産卵抑制効果の高い薬剤を、6月中旬に散布する。その後園内で、成虫を多く見かけた場合は、2週間後に散布を行う。
- ・多発園では、株元にモスピラン顆粒水溶剤200倍を散布(モスピランの総使用回数3回/年に注意)

残効試験では、アドマイヤーフロアブル、エクシレルSE、ハチハチフロアブルで高い防除効果が得られた。  
産卵抑制試験では、モスピラン顆粒水溶剤、ハチハチフロアブル、ダントツ水溶剤の効果が高かった。

これらの防除を組み合わせ、大切なみかんの樹を守りましょう！